

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立呉南特別支援学校		
学校長氏名	古谷 晶江	栄養教諭氏名	山本 陽香
職員数	112名	児童・生徒数	172名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

昨年度まで3年間、朝食アンケートを実施していた。主食主菜副菜のそろった朝食をとっている幼児児童生徒の割合は5割程度に停滞している現状がある。特に朝食内容について家庭へ啓発する指導が多く、家庭への変容を求める部分が大きかったため、今年度は「幼児児童生徒が自らできること」についても指導が必要だと考えられた。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

基本的な生活習慣における「手洗い」について学部別に設定した評価項目における目標達成率の割合：60%

○手洗い指導における「洗う部位別項目」

①手のひら ②手の甲 ③指の間 ④爪・指先 ⑤親指のまわり ⑥手首

各学部の目標 ①②以外の1つ以上洗えている…知的障害部門小学部

①②以外の2つ以上洗えている…知的障害部門中学部

①②以外の3つ以上洗えている…聴覚障害部門幼稚部～中学部、知的障害部門高等部

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】 養護教諭と連携した手洗い指導

①学級での指導：手洗いチェッカーを使った指導

手洗いチェッカーを活用し、汚れが落ちにくい部位を視覚的に働きかけながら、正しい手洗い方法や手洗いの大切さについて指導を行った。発達



段階や障害特性に応じて、紙芝居を使ったり、手洗いの歌を取り入れるなど工夫した。まとめの部分で「おやつやごはんを食べる前には必ず手洗いをすること」を確認した。また、指導する担任も一緒に手洗いをしたことで、汚れが残りやすい部位を認識でき、これまでの手洗い指導を見直す機会となった。

②集団指導：終業式での教員劇

6通りの手洗いポーズを教師が演じて「手洗い戦隊アラウンジャー」がばい菌を退治する技として設定した劇を実施した。実際に幼児児童生徒と一緒に手洗いポーズを行い、ばい菌を退治する場面を劇中に取り入れ、楽しみながら手洗いについての興味・関心を高めることができた。



【取組2】 生活習慣アンケート

家庭での生活習慣として、睡眠時間、朝食、おやつ、排便、歯みがき、手洗い等について選択式のアンケートを年に2回実施した。回答結果に生活習慣を定着するための情報やアドバイスを載せて、おたよりとして保護者に配付した。

【取組3】 教科等と関連した指導

昨年度からの課題である朝食等についても授業で指導を行った。

知的障害部門中学部2年 職業・家庭「たべものの3つのはたらきを知ろう」

トクトク元気応援団という特別支援学校統一食育キャラクターを用いて、劇を交えながらたべもののはたらきについて学習した。給食の時間だけでなく、朝ごはんや夜ごはんも好き嫌いせず食べることの大切さを確認した。



知的障害部門高等部1年 家庭科「元気が出る朝食を考えよう」

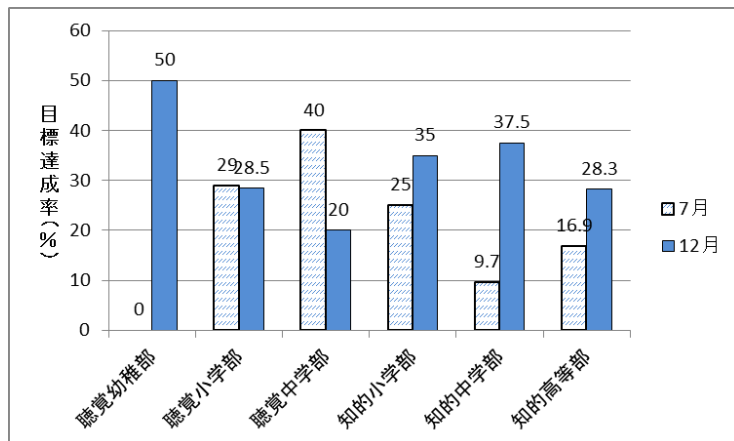
自分の朝食を振り返り、実践することを目標に自分ができることを見付けて、バランスの良い食事に近づけられるよう、指導を行った。指導後1週間の朝食を記録するワークシートを宿題にし、振り返りが行えるようにした。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

特別支援学校統一メニューとして「トクトクCライス」を考案、実施した。実施当日は、100万食プロジェクトのPRができるよう、「Cスープ」にかけて、カープのユニフォームを着用し、各教室や食堂を回った。関心をもって、話を聞く姿勢がみられた。家庭には「つくレポ」の募集を行い、文化祭での展示、メニュー配付を行った。



5 取組に対する成果と課題



【成果】7月から12月で目標を達成した幼児児童生徒は聴覚障害部門幼稚部で50%、知的障害部門中学部で28%増加している。目標達成には至らなかったが、授業で指導した学級では熱心に手洗いをする姿がその後の給食時間でも見られた。また、家庭からも指導後に丁寧に手を洗うようになったという声があった。

【課題】目標を下回った原因としては取組の目的の周知が十分でなかったことが考えられる。保健安全部を中心に目的を共有して学校全体で取り組んでいけるよう今後も工夫していく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

手洗い指導について、学校全体で取り組んでいくために、教職員全員に共通認識を図ることが必要であると考える。年度初めの会議等で周知するなど共有する場を考える。また、実践につなげるため、授業だけでなく給食時間の前に指導するなど、指導のタイミングについても検討する。栄養教諭として、各学級に巡回する計画を立て、全学級に指導ができるようにする。

その他の食育指導について、活用できる食に関する指導の全体計画の作成に努める。今後も発達段階に応じた内容を指導できるよう担任と連携し、事前の打ち合わせを十分に行う。